

2017年7月16日（日）

主 題：「律法はあなたの養育係です」
ー旧い契約の特徴ー

テキスト：ヘブル人への手紙9章1～10節

はじめに

・〈例 話〉

だれでも人は小さい時、「教育」を受けます。日本では、国民はみな平等に教育を受ける権利が与えられています。教育は人を作り、家庭を作り、社会（国）を作る大切なものです。

- ・皆さん。どうぞ誤解しないでください。私は決して高学歴の教育を指しているではありません。いいえ、人間として必要最低限の教育（学ぶべきこと）を言うのです。その意味で、幼い頃に受けた教育（幼児教育）はとても重要と思います。どんな環境で、誰から教えられるかは大切です。

- ・私は小学生時代の思い出として、二人の先生の顔を今も思い出すことがあります。

① 当時は戦後の日本。日本全体が貧しかった時代でした。私の家も貧しかったでしたが、もっと貧しかった家がありました。同級生にその家の子がいました。彼の父親は職を持たず、酒を飲み、遊び人でした。そのため彼は食事も満足に得られず、学校に収める費用も払えませんでした。そればかりか、風呂に入れなかつたので、彼の身体からは常に悪臭がプンプンしていました（今では考えられないでしょう）。

- ・先生（男性）は、子どもたちの前で彼の親の悪口を盛んに言いました。私はとても辛く今でも、鮮明に覚えています。もう60年以上前のことです。

② もう一人の先生（女性）が私の担任でした。先生の名前は山上先生でした。元気がよかつた私は、先生にも迷惑をかけたことと思います（記憶にないが他人はそう言う）が、不思議にも私に目を留めてくださいました。そして学校に誤りに行った母親に、「この子は、きっと立派になりますよ。」と言ってくれたそうです。後日、母親は私に、「熟練した女性教師が言ってくれた言葉は、大きな励ましとなった。」と言いました。（その後、私が成人して立派になったかどうかは不明ですが）

- ・皆さん。子どもは教師のもとで教えを受け、成長するものです。教師が語る一言、その導き方はとても大切です。なぜなら、教師は子どもを成長へ導く養育者であるからです。人はどのような環境に置かれ、どんな教えを受けるかは重要です。

- ・聖書は、私たちにじつはその重要な養育について教えています。今日の9章は、いよいよこの手紙の核心とも言える重要なテーマに入ります。モーセの兄アロンは大祭司として選ばれ、彼の子孫もまた、次々と大祭司の務めを行ってきました。神が神の人（祭司、大祭司）を通して教えられたことは、「神の律法」でした。律法の先に立って従うべき祭司（大祭司）たちは、だれも神の律法を満たすことはできませんでした。儀式を通して、人の罪を完全に贖うことはできませんでした。

- ・では、「律法を満たし」は、どのようにして成就したのでしょうか。

ガラテヤ人への手紙は次のように教えています。

3:23 信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。

3:24 こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。

3:25 しかし、信仰が現われた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。

・この聖句は信仰の真髄を語っています。

- ・ガラテヤの手紙で、古い律法は私たちをキリストへ導く養育係となった、と言いました。つまり民に与えられた律法は、人がどれだけ努力しても守れ切れない律法は、実はキリストへ導くためでした。ここに律法が与えられた目的がありました。養育係とは教育者のことです。昔々、ローマの時代、裕福な家庭では家庭教師を迎え、子どもを養育をする家庭教師を置きました。そのゴールは、子どもの成長と完成にありました。
- ・皆さん。私たちは養育係と呼ばれた律法の本質を知らないならば、その次に来る「新しい律法」が、なぜ必要であったのか分からないのです。著者はこれから、この重大問題について明らかにしています。

大切なポイント

1 「旧い契約」における聖所と礼拝

9:1 初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました。

旧い契約では、神との交わりは限られていました。それは礼拝の規定と聖所でした。

1) 神と会う場所

- ・神と民が会う場所は決められていました。その場所は幕屋と呼ばれ、荒野を旅する民に移動式の礼拝所を設けられました。そこは聖所と至聖所からなっていました。

写真①1、写真①2

9:2 幕屋が設けられ、その前部の所には、燭台と机と供えのパンがありました。聖所と呼ばれる所です。

- ・「燭台」は純金製でした。そしてこの燭台には、一晩中、灯火を絶やすことはありませんでした。ユダヤの歴史家ヨセフスによれば、夜間は4燈、昼は3燈点火したそうです。すなわち、聖所内を一日中ランプで照らしていました。祭司は毎日、朝晩ともしびを灯さねばなりませんでした。また香をたかなければなりませんでした。安息日には、パンを供えなければなりませんでした。祭司たちは当番制で、この務めを行なっていました。それは生ける神の臨在を示しています。神は光なるお方です。
- ・「机」はアカシア材で造られ、それを純金でおおいました。これは安息日ごとに12個のパンを供えるためのものでした。 出エジプト25：23-30

9:3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれる幕屋が設けられ、

神はモーセに、幕屋（神を礼拝するためのテント）を造るよう指示されました。

イスラエルの民はエジプトを出た後、40年も荒野を流浪しました。しかし神は幕屋におられ、彼らを守られました。

- ・したがって、イスラエルの民にとって、これほど重要な物はありませんでした。この幕屋の聖所の中には「至聖所」が設けられました。そこには「契約の箱」が置かれていました。（出エジプト26：31-35）

9:4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナの

はいった金のつぼ、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板がありました。

写真②

「契約の箱」は内側も外側も純金で覆われていました（出エジプト25：10-16、37：1-5）。この中には3つのものが入っていました。

- ① 金の壺：マナが入る（出エジプト16：31-34）
- ② アロンの杖：芽を出したアロンの杖（民数記17：23-26）
- ③ 契約の板：十戒が記された板（出エジプト25：16、31：18）

9:5 また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光のケルビムがありました。しかしこれらについては、今いちいち述べることはできません。写真③

「ケルビム」人の顔をした動物体の像で天使とも言われ、神の臨在を示しています。

（出エジプト25：18-22）「ケルビム」は、人が近づいてはならないという印です。創世記

3:24 こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

- ・「贖罪盤」は、4節の「契約の箱のふた」のことです。

（出エジプト25：17-22）。

- このように、神とお会いする場所は幕屋であり、その幕屋内の詳細について定められていました。そして次に、だれが神の前に出ることができるかです。それが次のポイントです。

2) 神に会う人

- ・旧約聖書の時代、民は神と直接会うことはできませんでした。神と民との間には中保者である祭司が必要でした。祭司は毎日聖所に入り、礼拝の儀式を行いました。

9:6 さて、これらの物が以上のように整えられた上で、前の幕屋には、祭司たちがいつもは行って礼拝を行なうのですが、

- ・そして一年に一度だけ、大祭司が至聖所に入り、民が知らずに犯した罪の贖いのいけにえをささげました。

9:7 第二の幕屋には、大祭司だけが年に一度だけは入ります。そのとき、血を携えずにはいるようなことはありません。その血は、自分のために、また、民が知らずに犯した罪のためにささげるものです。

- ・大祭司は、年に一度、白い特別な服装をして至聖所に入ります。最初は、自分と家族のためのいけにえの雄牛をほふりました。そして、その血を契約の箱の上の黄金の蓋の上と横に振りかけて罪の償いをしました。
- ・次に、民の罪のためのいけにえである雄山羊をほふりました。そしてその血を前と同じように、振りかけました。それから、大祭司はもう一頭の雄山羊の頭に両手を置き、「イスラエルの民の罪を全て告白し、その身代わりとして、この山羊を荒野に放つのです」（レビ16：21）。これが大祭司が年に一度、自分と民の罪を贖うことを表す働きでした。
- ・しかし、このような事をしたから言って、罪が清められ、両親の呵責もなくなったかと言えば、そうではありませんでした。旧約聖書時代に繰り返し行われた礼拝は、新約時代の礼拝を象徴的に表すものでした。本当の礼拝は、キリストが十字架上で成し遂げてくださった償いの死によって、初めて開始されたと言っても良いでしょう。
- ・ですから、旧約時代の礼拝はやがて実現する新約時代の礼拝を指し示す影のようなもの

でした。動物の犠牲によって罪が赦される道が開かれました。しかし、毎年その行事をすることが求められました。

- 今の時代は、完全なお方イエス・キリストが一度だけ、捧げられたことによって、神の救いのわざは完了しました。いくら動物の犠牲が捧げられても、それによって礼拝する者たちの良心までも、清めることはできませんでした。

しかし今は違います。イエスによって救われた人は、良心までも新しくされるのです。

聖書：「だれでもキリストにあるなら、その人は新しく造られた人です。」

- ところで、神ははじめから、人と親しい関係を結ぶことを願って来られました。このように1) 神と会う場所、2) 神に会う人が定められていたこと、には意味がありました。それは罪を清めた上で、神のみ前に出る大切さでした。神の御心は、民との関係（交わりを持つ）を結ぶことにありました。
- しかし、すでに申し上げたように、イスラエルの民は律法を守ることはできませんでした。つまり守れなかった律法が、守れなかった固めに、養育係となったのでした。それは完全な律法へ導くためでした。
- 皆さん。ここに律法の目的を見ることができます。世の中の多くの人々は、律法（戒め、規定等）を満たそうとしています。しかし所詮、人間です。律法を守り通せる人はいないのです。

2 「旧い契約」の特徴

9:8 これによって聖霊は次のことを示しておられます。すなわち、前の幕屋が存続しているかぎり、まことの聖所への道は、まだ明らかにされていないということです。

- 「聖所への道は、まだ明らかにされていない」とは、至聖所へ自由に入ることはできないという意味です。すなわち、人はまだ神との和らぎが与えられていないということです。この世の中には多くの宗教がありますが、それらは全て真の意味で神との和らぎを得る聖所への道を開くことはできません。ただ大祭司であるイエス・キリストによって、初めて神を拝することができるのです。

9:9 この幕屋はその当時のための比喻です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

- 「当時のための比喻」とは、「一時的な見本のようなもの」という意味です。すなわち、人が神を求めて日々熱心に修行し、戒律を守り、努力して自力で清くなろうとしても、そのような行為によって、人は決して「良心を完全にすることはできません。」真の救いも、平安も得ることができません。

9:10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関するもので、新しい秩序の立てられる時まで課せられた、からだに関する規定にすぎないからです。

- 「新しい秩序の立てられる時まで」とは、「もっと良いものが来るまで」、すなわち「改革の時が来るまで」、それはイエス・キリストが来られる時までという意味です。イエスはすでに来られましたから、旧い律法は養育係の働きを完了しました。このように「旧い契約」は、いろいろと細部にわたって規定し、それを守るように命じました。しかし、それは本当のものが来る時まで、一時的に必要なものでした。
- ここまでが、はじめの契約による規定と聖所でした。

* ここで少しまとめてみましょう。

① 「旧い契約」である律法は、養育係である

旧い契約の中心は律法でした。律法が書かれた板は、幕屋の至聖所に置かれ、「契約の箱」の中に安置されました。民はこれを非常に大事にしていました。その時代、神の臨在を表す「契約の箱」を、おろそかに扱うことは許されませんでした。

- ・ 著者はこれらすべては、やがて現れる「新しい契約」の「ひな型」であると言いました。つまり養育係（導き手である教師）でした。養育係は目標がありました。

② 「旧い契約」では、神との正しい関係を持つために、律法といけにえが必要

- ・ 神と民を引き離すものは、罪であります。その罪を赦していただくため、民は祭司を通して、神へいけにえを捧げることが求められました。動物の血が流されたことによって、罪が赦されました。しかし、それは完全なささげものである「イエスの型」にすぎませんでした。

③ 「新しい契約」はイエス・キリストによって結ばれた。

- ・ それは「旧い契約」のような、特別な規定や場所によるものではありません。動物の血をたずさえ、大祭司が登場する必要もありません。いいえ、まったく大祭司であるイエス・キリストが、全てを完了してくださいましたから、「旧い契約」は不要となりました。それは、やがて来られるお方の影でありました。

- ・ したがって、今の時代は律法を守ることによって、救われるではありません。またいけにえの動物を捧げることによって、救われるのでもありません。ただイエス・キリストを信じるという「信仰」によって救われるのです。なんとという恵みの時代ではありませんか。これは神がなされたわざで、私たちには不思議なことです。

ま	と	め
---	---	---

主 題：「律法はあなたの養育係です」

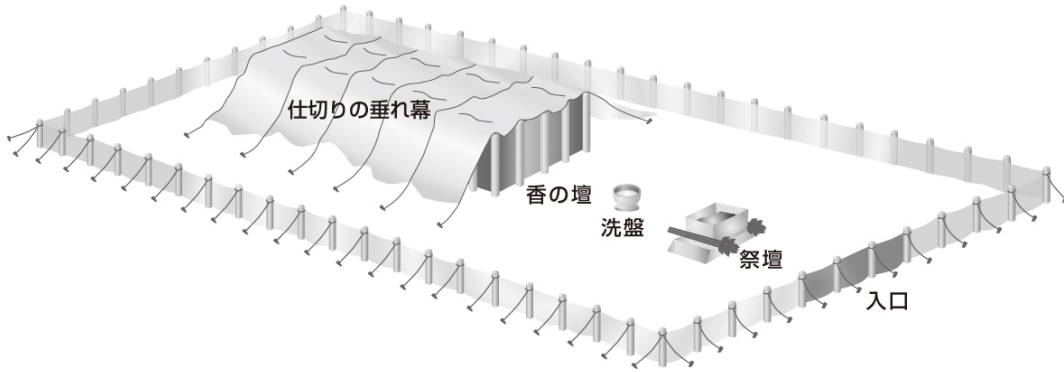
—旧い契約の特徴—

- ・ 今日、私たちは律法による「旧い契約」の特徴について、学びました。主が私たちにお語りくださったことは、次のことです。
 - 1 律法といけにえによる「旧い律法」は終わった
 - 2 信仰による「新しい契約」が始まった
- ・ いかがでしょうか。私たちは何によって生きる人でしょうか。まだ「旧い律法」の中にいないでしょうか。もうすでに「新しい契約」に入った者でしょうか。

* God bless you!

<資料>
写真 ①

幕屋の基本的構造



写真②



写真③

